

速報！

平成 23 年会計士第Ⅱ回短答式（5/29 実施）

出題分析と次回への対策

LEC 会計士講座講師 高野博幸

★全体の感想★

今回は、前回の試験に比べるとやや難しくなったような印象を持ちます。計算科目ではボリュームの多い問題や、解くのに時間がかかる問題などが出題され、理論科目でも比較的細かい知識も問われていました。

その一方で、合格ラインについてはおそらく受験案内に明記されているように平成 23 年第Ⅰ回短答式（12/12 実施）の 73%と同じになるのではないかと思います。ただし、専門学校としても解答を確定しきれないものもあり、数%は得点にズレが生じる可能性があります。論文式試験まで残り 3 カ月であるため、あとで後悔しないように、ボーダーライン前後の方は勉強を継続することをオススメいたします。

また、今回残念な結果になった方は、今回の試験結果を踏まえて、どのような学習法を取るかをしっかり検討する必要があります。

以下では、各科目の講評を行いたいと思います。

（なお、今回各科目の講評について自ら問題を解くと同時に、企業法：志村先生、管理会計：池邊先生、監査論：吉原先生、東先生、財務会計：岡本先生、渡辺先生にお話を伺うなど、LEC 講師の方々にご協力いただきました。ありがとうございました。）

<企業法>

今回の企業法について、難易度は並というイメージでした。

前回の平成 23 年 12 月短答式は比較的平易、その前の 22 年 5 月は難しかったのに比べると、ちょうどその中間といったイメージです。

出題形式としては、4 つの肢から正しい肢を 2 つ選択する問題がほとんどです。最近の傾向としては、条文の規定を問う問題が多くなっています。一方で、そもそも条文には規定がない別の論点の用語を、問題文に混ぜてひっかけものなども出題されています。

次回への対策

大きな傾向の変動はないため、従来通り基礎をしっかり学習することが大切でしょう。余裕があればやはり逐条解説のような条文に戻って学習することも効果的であると考えら

れます。なお、新試験になってから出題されていない範囲としては「商人間の売買に伴う規定」、「取締役等の責任免除の規定」などがあげられますので、出題可能性が高いかどうかは別にして、最低限押さえておく必要があります。

逆に最近よく出題されている規定としては、「違法行為などがあった場合の報告義務の規定」（誰が誰に報告する等）などがあります。こちらは今回の問題で出題されなかった分、次回は念のため注意をしておきましょう。

<管理会計>

全体的には、並あるいはやや難だと思います。

まず計算については、通常の問題形式とは問われている部分が異なり、パズルのように推定で解答を出す問題など、捻りがある問題がありました。逆に、わかりやすい問題は問われていることがわかってしまえばすぐに答えの出る問題もあり、**解く問題の取捨選択がポイント**になったと思われます。

理論についても、最終的に答えを絞りにくい問題や、解答が1～5まで全て○になるなど、本当にこの解答でいいのか確信が持てない問題が多くありました。最終的には答えに確信が持てなくても時間の関係で早めにわりきって解ける問題に進むことが必要でした。

後述しますが、今回は監査論に時間がかかることを考えると、全体的に時間が足りなくなる可能性がありました。そのため、解く問題・解かない問題の取捨選択の力、与えられている条件をしっかりと読み解く力、早く正確に解く力など、さまざまな力が問われたといえるでしょう。

次回への対策

取れる問題を落とさないように、基本的な論点をしっかり復習しつつ、その知識が応用された初見の問題を解くなど、応用力をつける必要があるでしょう。

<監査論>

全体的に難化したと思われます。まず、前半部分で難しい問題、細かい問題が多く、その後の精神的に不安になってしまうような問題でした。後半部分は前半部分に比べると解ける問題もあるかと思いますが、それでも比較的難しい問題が多かったようです。

今回の試験を見てみると、論文式試験の試験範囲に入っていない短答式特有の論点からの細かい出題が多くなってきたようです。そのため、短答式試験は短答式試験と割り切って比較的細かいことまで学習をする必要があったといえるでしょう。

次回への対策

歴史の問題の出題などもあり、費用対効果を考えると、高得点を目指して細かいことばかりに集中するのは賢明ではありません。今まで学習してきた類似の知識を活用すれば解ける問題や、全部の肢の解答がわからなくても解ける問題があるはずです。今ある知識をしっかりと固めることをまずは優先しましょう。

もし次回も、同レベルの問題が出た場合には、高得点は望めない可能性があることをしっかり認識し、他の科目とのバランスを考えておく必要があります。

管理会計との時間の兼ね合いもありますので、わかる問題を早く解くために繰り返し演習などを繰り返し、知識をしっかり固め、わからない問題があっても気にせず進む勇気が必要になります。

<財務会計>

今回の問題は並か、やや難といえるでしょう。計算は、時間がかかりそうな問題と、かからなさそうな問題をある程度判別できる問題でした。時間のかかる問題も、解けないというわけではなく、時間をかければ解ける問題だといえます。そのため、わかる問題は早く解き、時間のかかる問題を解く時間をできる限り作る必要がありました。

理論は、聞いたことのない知識もあったかもしれませんが、答えを出すということを考えると、知らない肢があっても選択肢から判断できる問題がほとんどだったように思います。

また総合問題は、前半部分は特殊商品売買の少し難しい問題でしたが、とりやすいところを取っていけば最低限必要な点数は取れるでしょう。後半部分の企業結合分離は、今回は比較的解きやすい問題が多く、またそれぞれの問題が独立しており、どこかが解けなくても他の問題が解けるということで、ある問題がわからなくても先に読み進めていくことで、しっかり点数を積み上げやすい問題でした。

財務会計については、理論と計算のバランスが難しいといえます。理論については1問2分程度で解いていくようなイメージをもって、計算に時間をかけることが大切でしょう。

次回への対策

オーソドックスですが、しっかりと計算力をつけること、理論も基礎的な知識を固めることです。地道な学習が必要でしょう。